

1980年代の農業へ向けて

「地域農政」のすすめ

最近の農業は米の過剰を初めとして、肉類・野菜・果樹と余剰気味、加えて輸入農産物の圧迫を受け、暗い材料があまりにも多い。しかし、農業及び農村の役割は誠に重要なものがあり改めて見直す必要がある。

それは、七〇年代の高度成長期に良質の労働力として子弟を送り出し、又、不況下における帰休を可能ならしめたのは、すべて豊かな農村、農業の存在があったから

に外ならない。云い換えれば、日本経済を支え、発展させる原動力は農村であるとも云える。

そこで、この農村なり農業を、もっと、もっと力強いものにし、豊かな住み良い地域に仕立てて行く必要がある。

その為には

地域に住む人達が協力し合って、自らの手による地域づくりを推進しようとするのが「地域農政」のねらいである。

●まず地域づくりは集落づくり

集落の中で生じている生活や生産の問題について、集落のみんなが話し合い、今後どう対処して行くかを検討し、推進方策や、計画をまとめ上げることになっている。

●集落の中の検討内容(例)

- 集落の中で子供の遊び場や、老人等の休息所、緑の公園、いこいの場をどうするか。
- 集落下水や生活道路など生活環境条件をどう整備するか。
- 集落の話し合いや、計画化を促進するには、どんな組織でどんなやり方をすれば良いか
- 集落の中で、組織的な生産体制をとるにはどうすればよい

●集落の推進組織

集落での話し合いを通して集落意向まとめ、計画化、していくためには、集落リーダーに担うところが大きい。既成の自治組織で充たるか、特別にリーダー組織を組むかを検討して、推進を図られた。

改選

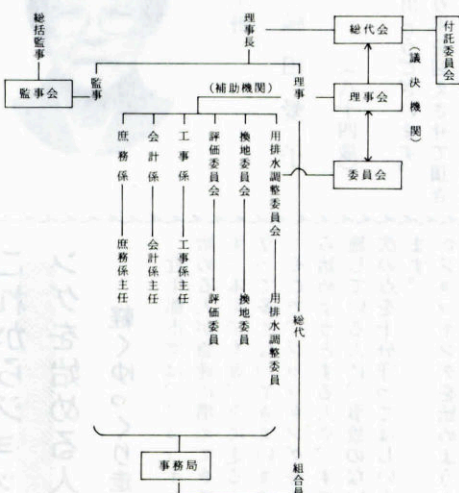
三隅土地改良区役員
理事 九名
監事 三名

県営は場整備事業は、昭和五十七年度着手以来五年目に入り、補完工事を残し乍らも田面工事は、本年度末を以って55%の進捗と相成り、来年度は、第二換地区へ移行することになりました。第二換地区の各々には、大変永らくお待ちを頂いています。これも諸般の事情によりありますが、十分ご理解を頂きますようお願いいたします。今後の見込みとしまして補完工事を除き、田面工事は、昭和五十七年度末には全区完了の予定であります。

定であります。

三隅土地改良区もお陰を以って健全な運営を続けてまいり、昭和五十四年十二月十日を以って、発足以来四年間多大の成果を修め乍ら一区切りとなり、第一期を終え新しい地区総代と役員を選任が出来上り、工事の早期完成を旨とし新執行体制のもと、力強く継承いたしましたのでここに、その顔ぶれを発表し、今後共よろしくご支援ご協力の程お願い申し上げます。あいさつにかえさせて頂きます。

三隅土地改良区機構図



- 理事長 木村 庄
副理事長 山田恭輔
理事(庶務担当) 奥野幸雄
理事(会計担当) 山本 正
理事(工事担当) 西村利雄
理事(評価担当) 原田民男
理事(換地担当) 林 喜庄
監事(総括) 大草雅司
監事(筆頭) 堀光太郎
山崎 清

野波瀬漁港 修築事業

十億五千万円

近年漁船の大型化が目立ち港内が狭隘となり漁港の安全停泊が困難になり、また漁村は、特有の漁港のすぐ背後には山林が迫り人家が密集して集落を形成している状況であり漁港施設用地は皆無の状態です。

そこで、昭和四十八年に第五次漁港整備計画(総事業費十億五千万円)により、昭和四十九年度より防波堤から着手し、大迫防波堤完了。小野波瀬防波堤を五十四年度に完了する、また五十三年度よりけい船岸と併行して、給油施設・野積場・荷捌所等各種用地を造成中で現在六十%の進行状態です。これからの計画は、船場物魚具倉庫、漁船修理用地等を造成して昭和五十七年度に完成する予定です。